

# 安全報告書(2025年)



 **水間鉄道株式会社**

# 2025年 安全報告書 目次

- 1 ごあいさつ
- 2 安全の取り組み
  - 2-1 安全方針
  - 2-2 安全目標
  - 2-3 行動規範
  - 2-4 安全文化
- 3 輸送の安全について(実態)
  - 3-1 鉄道運転事故
  - 3-2 インシデント(事故の兆候)
  - 3-3 輸送障害
  - 3-4 災害
  - 3-5 行政指導等の有無
- 4 安全管理体制と安全管理の仕組み
  - 4-1 安全管理体制
  - 4-2 ヒヤリハット情報の収集と活用
  - 4-3 緊急時の防災体制
- 5 安全対策の実施状況
  - 5-1 設備関係
  - 5-2 人材の育成等に関する取り組み
  - 5-3 異常時の対応
  - 5-4 その他安全への取り組み
- 6 自治体・関係先との連携
  - 6-1 関係先との連携
  - 6-2 自治体との連携
  - 6-3 お客様への安全啓発
  - 6-4 お客様、住民の皆さまへのお願い

# ごあいさつ

平素より水間鉄道をご利用いただき、誠にありがとうございます。当社は今年度で開業100周年を迎えます。輸送の安全を確保するために経営トップから現場まで一丸となって、安全管理体制の向上に努め、開業以来100年間、輸送の最大の使命である安全を念頭に、鉄道輸送サービスの提供を続けてまいりました。開業100周年を迎えることができますのは、当社だけの努力だけでは到底なしえないものであり、沿線地域の皆さま方の弊社事業に対するご理解、そして何よりも日頃よりご利用いただいている皆さまのおかげであり、心より感謝申し上げます。

今後も社員のひとり一人が「安全はすべてに優先する」との強い意識を持ち、輸送の安全に関する法令や規定を遵守し、厳正かつ確実に職務を遂行するとともに、職場から提起される危険因子にはスピーディに対応し、全社員が一丸となって安全文化・安全風土の定着に向けて取り組んでまいります。

一方で、取り巻く社会情勢は「異常気象や自然災害」、「少子高齢化」、「テロの脅威」など、当社をとりまく経営環境は厳しさを増しているのも事実でございます。

本安全報告書は、鉄道事業法第19条の4に基づき、2024年度中における当社の輸送の安全確保のための取組みについて、自らが振り返るとともに、広く皆様にご紹介しご理解いただくために公表するものです。

当社における更なる安全・サービスの向上のために、ぜひご一読いただき、忌憚のないご意見やご感想をお聞かせいただければ幸いです。

代表取締役社長 藤本 昌信

## 2 安全の取り組み

### 2-1 安全方針

水間鉄道では、法令・規程の遵守の原則に基づき「安全方針」を定めています。

#### 安全方針

「安全の確保」は鉄道事業の最大かつ最重要の、お客さまに対する責務である。私たちは全社員が一丸となつて、この責務を誠実に果たし社会に貢献する。

- ・一人ひとりがルールを遵守し、職務を確実に遂行するとともに、もし判断に迷ったときは、自ら最も安全と思われる取り扱いをする。
- ・事故災害などが発生したときは、人命を最優先に考えて行動し、速やかに安全適切な処置をとるとともに職責・職場をこえて協力一致し、情報を迅速に伝え、安全の障害となる問題を速やかに解決する。

## 2-2 安全目標

水間鉄道では、「安全方針」に基づき具体的な「安全目標」を定めています。

### 2024年度「安全目標」

- ・ヒューマンエラーに起因する有責事故「ゼロ」
- ・インシデント「ゼロ」の継続
- ・ヒヤリハット報告、提出の促進
- ・新型コロナウイルス感染症の社内拡大による輸送への影響「ゼロ」

## 2-3 行動規範

水間鉄道では、「安全目標」達成のための行動指針として、「行動規範」を定めています。

### 行動規範

- ① 一致協力して事故の防止に努め、輸送の安全の確保に努めます。
- ② 輸送の安全に関する法令及び関連する規程を理解するとともにこれを遵守し、厳正、忠実に職務を遂行します。
- ③ 常に輸送の安全に関する状況を理解するよう努めます。
- ④ 職務の実施に当たり、推測に頼らず確認の励行に努め、疑義のある時は最も安全と思われる取り扱いをします。
- ⑤ 事故・災害等が発生したときは、人命救助を最優先に行動しそくやかに安全適切な処置をとります。
- ⑥ 情報は漏れなく迅速、正確に伝え、透明性を確保します。
- ⑦ 常に問題意識を持ち、必要な変革に果敢に挑戦します。

## 2-4 安全文化

水間鉄道では、「安全方針」や「行動規範」の実効性を高めるため、「安全文化」を策定して、「安全を最優先する企業風土の構築」に努めています。

### 「安全文化」

- 報告する文化  
「事故の芽」等について自ら進んで報告します。
- 正義の文化  
定められた法令や規程類、マニュアルを遵守します。
- 学習する文化  
事故等の情報から、有効な安全対策を策定し実施します。
- 柔軟な文化  
安全確保のために組織や職責をこえて一致協力します。

### 3 輸送の安全について(実態)

#### 3-1 鉄道運転事故

2024年度において、鉄道運転事故は発生していません。

#### 3-2 インシデント(事故の兆候)

2024年度において、国土交通省への報告はありません。

#### 3-3 輸送障害

2020年度～2024年度において水間鉄道で発生した輸送障害の発生原因と発生件数は次のとおりです。

発生原因	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
鉄道係員	0	0	0	0	0
車両	1	1	0	1	0
鉄道施設	1	1	1	0	0
※鉄道外	0	1	0	0	0
自然災害	0	0	0	1	1
合計	2	3	1	2	1

※ 輸送障害(30分以上の列車遅延、列車の運休等)

※ 鉄道外とは第三者行為、沿線火災等の外部要因

#### 3-4 災害

2024年度における自然災害等は1件ありました。

2024年8月25日ゲリラ豪雨による冠水(4本運休)

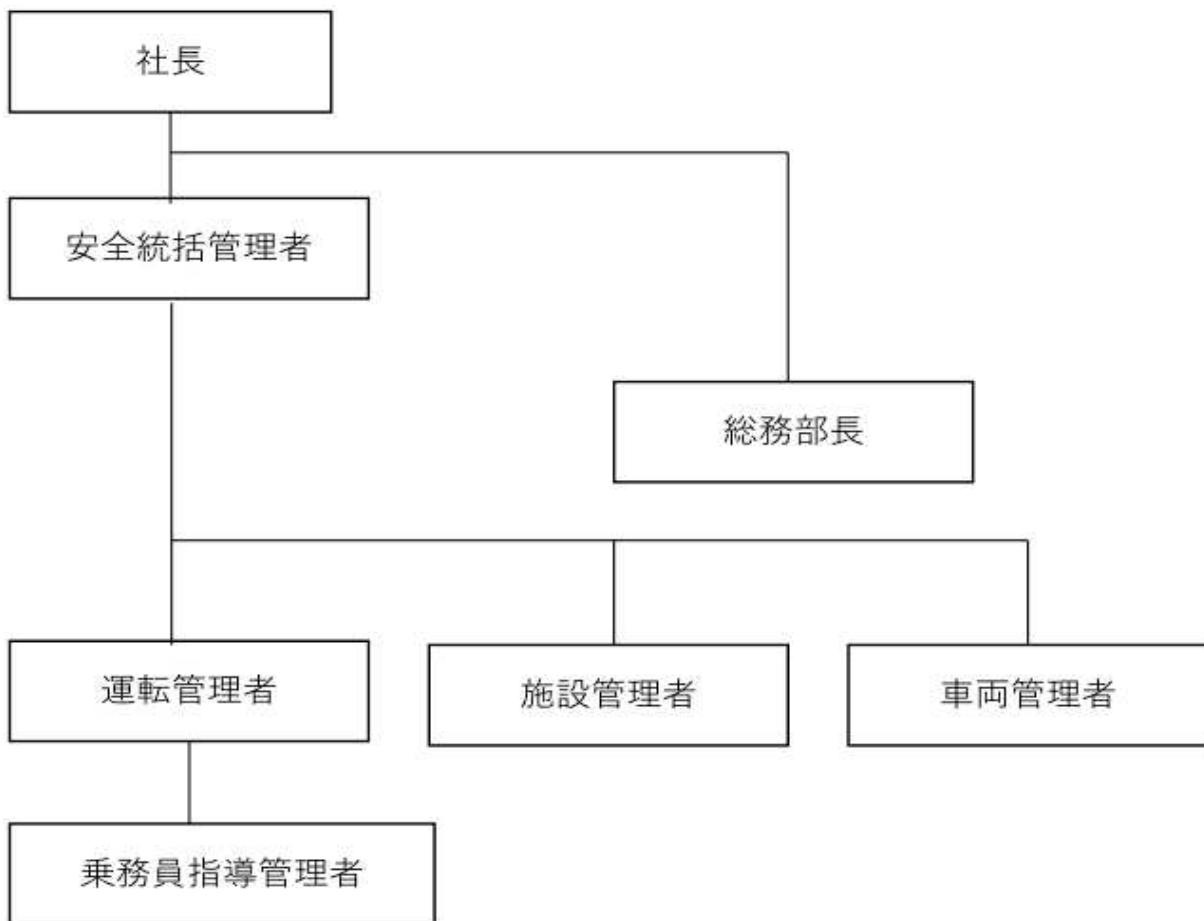
#### 3-5 行政指導等の有無

2024年度において行政指導等は受けていません。

## 4 安全管理体制と安全管理の仕組み

### 4-1 安全管理体制

水間鉄道では、社長をトップとする安全管理体制を以下のように定めて、各管理者の責任を明確にした安全管理体制を構築しています。



安全統括管理者	輸送の安全の確保に関する業務をします。
総務部長	輸送の安全の確保に必要な設備投資、財務、要員に関することを統括します。
運転管理者	安全統括管理者の指揮下、運転に関する事項を統括します。
施設管理者	安全統括管理者の指揮下、土木および電気施設に関する事項を統括します。
車両管理者	安全統括管理者の指揮下、車両に関する事項を統括します。

## 4-2 ヒヤリハット情報の収集と活用

### (1) 収集

「ヒヤリとした」「ハッとした」事象について各部署で  
収集し、分析を行う。

### (2) KYT 基礎 4 ラウンド法の実施

危険予知活動レポート（基礎4ラウンド法）		
事業所名		
想定事例		
第1ラウンド <どんな危険がひそんでいるか>		
潜在危険を発見・予知し、危険要因と、その要因によって引き起こされる現象を想定しよう		
第2ラウンド <これが危険のポイントだ>		
発見した危険のうち重要な危険に○印。さらに取り込み、特に重要なと思われる“危険ポイント”に◎印		
<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>	No. 危険要因と現象(事故の型)を想定して【～なので～して～になる】というように書く。
1.		
2.		
3.		
4.		
5.		
6.		
7.		
第3ラウンド <あなたならどうする>		
危険のポイント◎印を解決するため、具体的で実行可能な対策を考えよう		
第4ラウンド <私達はこうする>		
重点実施項目を取り込み印。さらにそれを実施するためのチーム行動目標を設定しよう		
◎印	●印	具 体 目
No.	事項	
1.		
2.		
3.		
4.		
5.		
6.		
7.		
8.		
9.		
10.		
事業所安全衛生委員会委員会		
行動目標		
【～をして～しよう】		
終了時		



## 4-3 緊急時の防災体制

### (1) 防犯カメラの設置 駅



車内・外 ドライブレコーダー用カメラを流用



### (2) AEDの設置

貝塚駅・水間観音駅に設置



## 5 安全対策の実施状況

### 5-1 設備関係

車いす用スロープの全車両設置



### 5-2 人材の育成に関する取り組み

#### (1) 係員の資質管理

- ① 適性検査
- ② 健康診断の実施状況
- ③ アルコール検査
- ④ 出勤点呼



#### (2) 教育

春・秋の全国交通安全運動、安全運転推進運動、年末年始の輸送等に関する安全総点検などの期間中に業務教育を実施

## 5-3 異常時の対応

- ① 多言語発信機能  
貝塚駅・水間観音駅にAI通訳機ポケトークを設置



- ② 案内サイネージ機能  
貝塚駅・水間観音駅改札口付近にデジタルサイネージを設置

- ③ 警察・消防訓練  
列車内安全活動(合同警戒)、護身術訓練などを受講



列車内安全活動(合同警戒)



護身術訓練

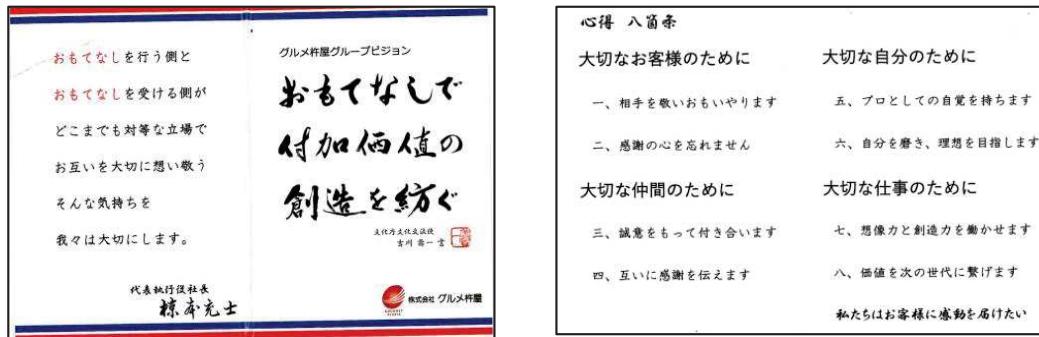
- ④ 現場での教育・訓練の実施  
災害を想定した情報伝達訓練の実施

- ## 5-4 その他の安全への取り組み
- テロ対策特別警戒中として不審者や不審物を発見した際の連絡先などを掲出しています

## 6 自治体・関係先との連携

### 6-1 関係先との連携

#### 親会社グルメ杵屋の行動指針



### 6-2 自治体との連携

#### 貝塚警察署・交通安全協会と合同で交通安全運動の啓発



踏切事故防止キャンペーン

### 6-3 お客さまへの安全啓発

小学校・幼稚園等の「安全教室」など  
を通じて、お客さまと「鉄道の安全」  
について共有する機会を設けています。



### 6-4 お客さま、住民の皆さまへのお願い

安全報告書に対するご感想、当社の安全に関する取り組み等に対するご意見は下記までお願いします。

水間鉄道株式会社 総務部

TEL 072-422-4567

FAX 072-431-0249

(8:45～17:35 土・日・祝 年末年始を除く)